

## 令和4年度第3回埼玉県スポーツ推進審議会【議事録】

- 1 日 時 令和4年11月18日（金） 9:45～11:45
- 2 場 所 埼玉会館2階ラウンジ
- 3 出 席 (1) 出席委員（14名）  
杉田委員、白川委員、久保委員、重田委員、稲葉委員、太田委員、松本委員、有川委員  
工藤委員（オンライン出席）、竹内委員、相澤委員、善福委員、増野委員、竹末委員  
(2) 欠席委員（2名）  
上條委員、宮寺委員  
(3) 事務局  
スポーツ振興課、保健体育課
- 4 議 事 ・次期埼玉県スポーツ推進計画の策定について  
(1) 計画策定に向けたスケジュール（案） 【資料1】  
(2) 令和4年度第2回審議会御意見等への対応（案） 【資料2】  
(3) 埼玉県スポーツ推進計画（案）に対する御意見（県民コメント）と県の考え方（案） 【資料3】  
(4) 埼玉県スポーツ推進計画答申（案） 【資料4】

## 5 内 容

- (1) 開 会 （傍聴希望者なし、議事録の署名委員を松本委員と善福委員に依頼）
- (2) 県民スポーツ文化局長挨拶
- (3) 議 事

・次期埼玉県スポーツ推進計画の策定について

### ア 計画策定に向けたスケジュール（案）

【事務局 資料1に基づき説明】

・質疑応答なし

### イ 令和4年度第2回審議会御意見等への対応（案）

【事務局 資料2に基づき説明】

・質疑応答なし

### ウ 埼玉県スポーツ推進計画（案）に対する御意見（県民コメント）と県の考え方（案）

【事務局 資料3に基づき説明】

#### ○ 有川議長

「埼玉県スポーツ推進計画（案）に対する御意見（県民コメント）と県の考え方（案）」について、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

#### ○ 杉田委員

県民コメントが3件とのことであった。少ないと感じる。正確な数字を求めはしないが、従前も同様の件数か。参考情報として教えてほしい。

○ 事務局（スポーツ振興課副課長）

5年前に現行の埼玉県スポーツ推進計画を策定した際は、27件の御意見を頂戴した。杉田委員のおっしゃるとおり、今回の県民コメント件数は少ないとの感想を事務局としても抱いている。

参考として、他自治体のスポーツ推進に係る計画の県民コメント件数を調べたところ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後に策定された計画のコメント数は押しなべて少ない状況であった。近隣の群馬、栃木、千葉では、1桁であった。大阪であっても、10数件であった。件数が少ないことについて理由は断言できないが、次のような理由が推察される。現行計画策定時は、オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップの開催前という時期であった。本県を始め、大規模なスポーツ大会が開催される期待感を背に、日本国内全体でスポーツへの関心、注目度が高まっていたものと思われる。一方で、大規模なスポーツ大会が終了した現在では、新型コロナウイルス感染症の影響も含め、スポーツへの関心、注目度が以前と比較して落ち着いてしまった可能性がある。

○ 杉田委員

県民コメントの件数について、他自治体との比較に大きな意味はない。県民コメントが少なかった理由を検討し、施策遂行の過程で生かしていただきたい。

○ 事務局（スポーツ振興課課長）

県民コメントに対するアピールが足りなかった、もう少し努力ができたのではないかという点につき、反省したい。より多くの御意見をいただけるよう努めてまいりたい。

○ 有川議長

他に御意見、御質問等ございましたらお願いします。

○ 増野委員

パブリックコメントの件数が少ない状況について市町村も同様の状況である。

県民コメントの周知方法について伺う。広報誌のみか、窓口で積極的に案内を行ったか、マスメディアを活用したか。繰り返し周知を行わないと、県民コメントは増えない。ホームページに情報を掲載しても、見ていただけることは殆どないと考えてよい。県としては、より多くのコメントが欲しいのか。

本県には、県政サポーター制度がある。スポーツの施策について、毎年アンケートがある状況。県民コメントのほか、県政サポーターの意見などもスポーツ推進計画に取り入れているのか。

○ 事務局（スポーツ振興課課長）

広報誌とホームページはもちろん、記者発表を行うことで、県民コメントを実施する旨を周知している。また、ラジオでも広報を行っている。なお、ホームページだけではなく、地域振興センターやスポーツ振興課などの窓口でも配架している。ホームページや周知方法について、若い方や、紙媒体を御覧にならない方がアクセスする方法の工夫ができていなかったのではないかという点について、反省したい。

大規模大会の終了や新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、県民の皆様のスポーツに対する思いが変わってきているという実感ある。次期スポーツ推進計画について、県民の皆様から、多くのいろいろな御意見を頂戴したかったというのが本心である。御意見を多く頂戴できなかったことについて、重く受けとめている。次回の計画策定は5年後となるが、その際は、より多くの御意見を頂戴できるよう努力してまいりたい。また、スポーツ関連施策を遂行する過程で、県民の皆様との接点を設けられるようにしていきたい。

県民サポーター制度は、大変有効と考えている。アンケート結果について、計画本文を作成する際の参考としている。

○ 有川議長

他に御意見、御質問等ございましたらお願いします。

○ 工藤委員

資料3、No.2の県民コメント「埼玉県スポーツ推進計画案の図、絵図の取り入れについて」、反映状況をC（案の修正はしないが、実施段階で参考とする）としている。この判断でよいと考える。国の基本計画の本文は文字が多い。一方で、概要版には、わかりやすく図や絵を取り入れている。概要を参照し、より詳しい内容を知りたい場合は計画本文を参照するという流れである。埼玉県としても、今後の周知活動の中で対応する方向でよいと考える。

資料3、No.3の県民コメント「ウォーキングの取り組みについて」、「健康マイレージプログラム」等の固有名詞を使用しない判断でよいと考える。私の在席する大学（所在地・東松山市）のスポーツ推進計画では、「ウォーキング」の推進が一つの柱になっている。県計画に「ウォーキング」という言葉を入れる点について、賛成である。

なお、ウォーキングはスポーツ、散歩は運動という分類で、全国調査を実施している。可能であれば、ウォーキングと散歩の言葉の使い方、定義付けをした方がよいと考える。

エ 埼玉県スポーツ推進計画答申（案）

【事務局 資料4に基づき説明】

○ 有川議長

「埼玉県スポーツ推進計画答申（案）」について、御意見、御質問等ございましたらお願いします。

○ 相澤委員

33ページの「②総合型地域スポーツクラブ」について、総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度に基づく登録クラブ数の現状値を新たに記載してもよいのではないか。目的が不明確になってしまったクラブは、今後リニューアルしていく方向と思われる。

○ 事務局（スポーツ振興課課長）

委員御指摘のとおり対応したい。なお、33ページの下に「■課題」の記載がある。その課題の内容として、新たな登録制度が整備された旨の記載がある。事実と課題が混同した記載となっているため、事実は前段の現状を記載している文に移行し、課題は「■課題」に記載したままとしたい。

○ 久保委員

スポーツ協会の立場で意見を述べる。相澤委員の御指摘のとおり、修正いただけるとありがたい。

14ページ、「国民体育大会における男女総合成績」について、「大会中止」の記載がある。12ページ、「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う県内中学2年生の割合」について、「調査中止」の記載がある。数値が判明しているものについて、調査を実施した年度の数値間を点線でつなぐことは可能か。

○ 事務局（スポーツ振興課課長）

表として機能を果たせるよう、修正してまいりたい。

○ 久保委員

「中学校を卒業した後、自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思う県内中学2年生の割合」について、出典は何か。

○ 事務局（スポーツ振興課主査）

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」である。

○ 竹末委員

女性のスポーツ実施率が低い状況について伺う。例えば「ウォーキング」もスポーツであることを明示すれば、スポーツ実施率は向上するのではないか。子供と一緒に公園に行くなど、必然的に「ウォーキング」を行うこともあるのではないか。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

「ウォーキング」もスポーツであることを明示し、これまでもスポーツの実施状況を伺っている。様々な身体活動を含めスポーツとしている。

○ 工藤委員

図表について伺う。様々な出典から資料をコピー＆ペーストしていると思われる。図や表のタイトルのフォントについて、明朝とゴシックが混在している。どこがタイトルであるか判別しづらい印象を受ける。図表番号を入れる、タイトルのフォント・体裁を統一するなど、修正してほしい。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

委員御指摘のとおり修正したい。

○ 杉田委員

53ページ、「①運動部活動における外部指導者の活用の充実について」のうち、1つ目の・に「教員不足に対応するため」との記載がある。「教員不足」という表現について、再考いただきたい。本計画を御覧になる方々が教員に対して悪い印象を持ってしまふことが無いよう、表現を工夫してほしい。

- 事務局（保健体育課主任指導主事）

競技経験がない教員に対してのサポートという意味で外部指導者の活用を行うところ、より適切な文言となるよう、検討したい。
  
- 松本委員  
運動部活動について、専門性を生かした指導の充実や部活動を指導できる教員不足に対応するため、外部指導者を活用する旨の記載がある。中学校の教員は教科指導がメインで教員となっている。この観点を忘れてしまうと、本計画を御覧になった方が「中学校の先生がきちんとしていないのでは」といった考えとなってしまう可能性がある。運動部活動に一生懸命取り組みたい教員がたくさん存在する一方で、中には、その逆も存在する。いろいろな事情があることを踏まえ、計画の表現を考えていただきたい。
  
- 事務局（保健体育課主任指導主事）

委員の御意見を踏まえ、より適切な文言となるよう、検討したい。
  
- 杉田委員  
54ページ、「③部活動の地域 移行に向けた環境整備」のうち、4つ目の・「運動が苦手な生徒や障害のある生徒も含めて、どの生徒も地域においてスポーツに親しむ機会が確保されるよう、地域におけるスポーツ環境の整備充実を推進します」について、部活動の地域移行自体が現在進行中で議論がなされているところ。文言の表現方法を吟味していただきたい。後半の「地域におけるスポーツ環境の整備充実を目指します」について、ハード面の整備ではなく、ソフト面の整備であることが読み取れる表現としていただきたい。
  
- 事務局（保健体育課主任指導主事）

委員の御意見を踏まえ、より適切な文言となるよう、検討したい。



- 太田委員  
74ページ、施策8「(4) スポーツ事故・スポーツ傷害の防止」及び同ページ「④スポーツ団体に対するスポーツ傷害予防知識の普及」などについて、「スポーツ傷害」であるか、「スポーツ障害」であるか(外傷であるか、繰り返しの負荷により生じてくるものであるか)言葉の定義を整理されたい。
  
- 事務局(スポーツ振興課長)  
委員御指摘のとおり、言葉の定義を整理した上で、適切な文言を使用したい。
  
- 増野委員  
計画本文pdf内での各項目のリンク(特に、P.41 体系図から各施策、各取組へのリンク)や、QRコードを設定するなど、読者に配慮した工夫が必要。
  
- 事務局(スポーツ振興課長)  
策定後計画を公表する際は、可能な限りリンクを設定するなど、読者に配慮した形としたい。
  
- 事務局(スポーツ振興課長)  
事務局から委員の皆様にお聞きしたい。計画全体を見渡した際の施策の体系のあり方について、改めて確認したい。目標に対して、指標や施策、事業を設定しているところ。目標、指標、施策、事業に整合性が取れているか、御確認いただきたい。
  
- 白川委員  
目標の順番について伺う。一番重きを置いているものが目標1であるか、それとも目標は順不同か。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

目標の順番について、現行計画の並びを生かしている。一番重きを置いているものを目標１としたものではない。

○ 白川委員

目標１を「多彩なスポーツの機会創出」としている。これよりは、目標２の「すべての県民にスポーツを」を目標１とした方が、県民の皆様馴染みやすいのではないかと。また、目を引くのではないかと。目標２の施策６は「スポーツを通じた高齢者の健康増進・生きがづくり」である。人生１００年時代とうたわれるなか、高齢者の方にも多くのスポーツをしていただきたいというメッセージも伝わりやすくなるのではないかと。

○ 工藤委員

白川委員の御意見に賛成する。今回の審議会資料の答申（案）を見た際に、「県はスポーツ観戦に力を入れる」と考えてしまった。白川委員のおっしゃるとおり、答申（案）の目標２を目標１とした方がよいのではないかと。但し、全体のページ構成が大きく変わってしまうので、今の段階で対応が可能かどうか、不安でもある。

それぞれの指標数値を目立たせてよいのではないかと。他の文言と同じ黒文字であると、目に飛び込んでこない。指標数値を掲げることは勇気があることであるが、数値目標を入れ込むからには数値の記載方法を工夫した方がよい。

指標１～３（指標１スポーツの現地観戦割合、指標２スポーツに関するボランティアに参加した割合、指標３スポーツ実施率）について、表現方法を統一した方がよいのではないかと。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

１点目については、他の委員の皆様の御意見も伺いたい。２点目、３点目については、委員御指摘のとおり対応したい。

○ 善福委員

白川委員、工藤委員と同意見である。目標1を「すべての県民にスポーツを」とすることで、「県民の皆様にはスポーツにもっといろいろな形で関わって欲しい」という県のメッセージが伝わりやすくなる。

目標3は主にアスリートを領域としている。「スポーツを支える基盤づくり」が目標2の施策となることで、目標2の取組が目標1：全ての県民と目標3：アスリートの双方を支えるイメージが湧いてくる。

○ 稲葉委員

目標1と目標2は入れ替えた方がよいと考える。また、目標の指標と関連する施策の順番も整えた方がよいのではないかと。例えば、目標2の2番目の指標に「子供のスポーツ意欲」がある。一方で、目標2の子供関連の施策は2番目ではなく1番目に記載されている。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

皆様の御意見を踏まえ、目標1と目標2の順序を入れ替えることとしたい。また、稲葉委員御指摘のとおり、指標と施策の順番を整理したい。

目標3について、「スポーツ先進県埼玉」の文言を活用したところ。改めて、この文言を活用することについて、御審議いただければありがたい。

○ 増野委員

「先進県」と言える理屈があれば、「スポーツ先進県」と記載することもよいのではないかと。県として突っ張った表現を活用してもよい。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

「スポーツ先進県」とすることについて、強いお言葉をいただきありがたい。

- 竹内委員  
目標3に関連して、伺う。指標6「国民体育大会男女総合成績（天皇杯）」の表現が誤解を生まないよう留意いただきたい。
- 事務局（スポーツ振興課長）  
国民体育大会天皇杯（男女総合成績）と表現を改めたい。
- 久保委員  
目標2の施策の並びを変えることについて、皆様の意見を伺いたい。施策6がスポーツ実施率の向上につながるのであれば、指標の並びと合わせ、施策の順番を変えてもよいのではないか。
- 増野委員  
施策の並びについて、各施策の重きは異なるのか、それとも同じか。
- 事務局（スポーツ振興課長）  
施策の重きはそれぞれ同じである。目標2「すべての県民にスポーツを」に施策6高齢者関連について、補足する。高齢者はスポーツ実施率が他の世代と比較して高い状況。スポーツ実施率を引き上げていくためには、施策4のスポーツ実施率の低い層をターゲットとした施策を主に展開したい。直接的な指標を設定していないため、目標2の中で施策6高齢者関連を一番下に記載したところ。
- 稲葉委員  
久保委員と同様の考えである。高齢者のスポーツ実施率が高いとのことであるが、全世代を対象にスポーツ実施率を引き上げていければよいのではないか。

○ 相澤委員

目標を入れ替えた際に、各目標の色合いはどのようになるのか。「すべての県民にスポーツを」という言葉に対し、明るい色を活用してもよい。検討いただければありがたい。

○ 事務局（スポーツ振興課長）

相澤委員御指摘のとおり色合いについて検討の上、対応したい。施策の順番については、委員の皆様の御意見を踏まえ修正したい。

施策6について、補足する。施策6の具体的な事業は、高齢者が参加しやすいスポーツイベントの普及、健康長寿埼玉プロジェクトの普及、ねんりんピック関連である。高齢者のスポーツ実施率向上に直接的に結びつく取組の記載が薄いことから、施策6を目標2の一番下に記載した状況である。施策の順番が変わることについて、各施策・事業担当課と調整したい。

○ 有川会長

それでは、本日の御議論を踏まえ、最終的な修正反映は私と久保副会長に一任いただければと思います。他に御意見、御質問がありませんので、以上をもちまして、本日の審議を終了します。

署名 有川秀之

署名

署名

署名 松本隆男

署名 \_\_\_\_\_

署名 \_\_\_\_\_

署名 善福真風

---

署名

---

署名

---